

## 食生活改善事業と併せて実施した 口腔診査結果にみる全身所見との関連

安積 明<sup>1</sup>、新庄文明<sup>1</sup>、村上修子<sup>2</sup>、家森幸男<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>兵庫県佐用郡歯科医師会、<sup>2</sup>財) 兵庫県健康財団

### 【目的】

歯周疾患には局所の衛生状態、喫煙や糖尿病との関連が指摘されているものの、全身の健康指標との関連については十分に明らかにされていない。兵庫県健康財団が実施する食生活改善事業の一環として口腔診査を実施し、歯や歯周組織の状態と全身の健康指標との関連について分析した。

### 【対象と方法】

食生活改善事業に参加した58名のうち、実施前と実施後の一般健康診査ならびに口腔診査を受診した55名を分析の対象とした。口腔診査では歯数のほか (1) 発赤部位数、(2) 出血部位数、(3) 3mm以上の歯周ポケット部位数を把握し、一般健康診査結果との関連について、(1) 食生活改善事業実施前、(2) 3か月後の食生活改善事業実施後、(3) 実施前後の変化を分析した。

### 【結果】

(1) 歯数は多いほど血糖値の指標であるHbA1Cは低く、炎症マーカーである高感度CRPは低かった。すなわち歯数とHbA1Cならびに高感度CRPの関連は有意の負の相関がみられた。(2) 発赤部位数はHbA1Cと事業実施前健診で、有意な正の相関がみられた。(3) 出血部位数は空腹時血糖の基準以上の者に多く、空腹時血糖、HbA1C、さらにインスリン抵抗性に関連するHOMA-IRと有意な正相関が事業実施前健診でみられた。(4) 事業実施前後の健診結果の比較では、出血部位数の変化と空腹時血糖、またはHbA1Cの差に有意の相関がみられた。(5) 歯数は事業実施前後で差はないが、発赤部位数、出血部位数は前後で変化したため、事業後の健診では、上述(2)(3)の相関は認められなかった。

### 【考察】

結果は、歯の数に示される口腔機能の保持が高感度CRPなどに代表される全身および口腔の炎症の発現や進行を抑制する可能性を裏付けるとともに、空腹時血糖値、HOMA-IR、HbA1Cと出血部位数とが伴って変動するなど、全身状況が口腔所見にも反映されうることを示唆している。今回は対象者が限られ、また診査内容にも制限があったが、今後は十分な数と一定の検査精度が確保できる条件下で調査すれば、「歯の健康」と「メタボリスク」の関係が明らかになると期待される。